

## 解体前の双葉町公民館



町会発足から5年後の昭和38(1963)年に新築。同61年に増改築し、都合66年を経ました。約40世帯で発足した町会も現在は約450世帯に約70事業所を加えます。「手狭だし、地震で倒壊しそう。」「地域コミュニティの拠点。」などの声に応え、10年事業として孫世代への「植樹」を決めました。

## ▼50年後への植樹

町会発足から5年後の昭和38(1963)年に新築。同61年に増改築し、都合66年を経ました。約40世帯で発足した町会も現在は約450世帯に約70事業所を加えます。「手狭だし、地震で倒壊しそう。」「地域コミュニティの拠点。」などの声に応え、10年事業として孫世代への「植樹」を決めました。

## 公民館備品の運び出し



「町会の体力」で資金も遅滞なく、また堅牢で夢ある設計図もできました。しかし世界的な情勢変化で、建築費をはじめ難関の連続です。また公民館備品の保管、引越しも必須です。でも多様な課題も住民のマンパワーで乗り越え、新たな絆となっています。

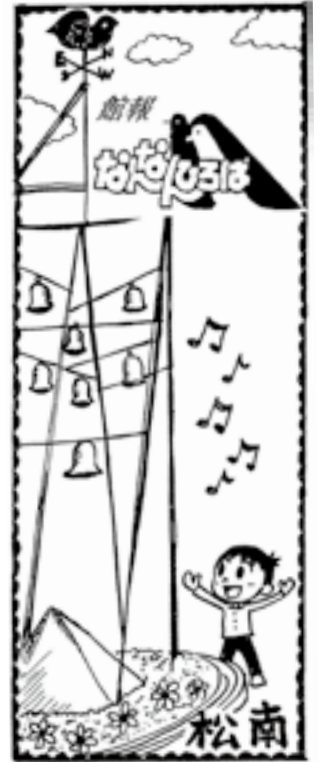
## ▼難関を越え...

「町会の体力」で資金も遅滞なく、また堅牢で夢ある設計図もできました。しかし世界的な情勢変化で、建築費をはじめ難関の連続です。また公民館備品の保管、引越しも必須です。でも多様な課題も住民のマンパワーで乗り越え、新たな絆となっています。

## 双葉町公民館改築工事が決定！

「改築を決めて7年、自治総合センターと松本市からの助成が決まり、ようやく着工です。」

双葉町会町内公民館長 白澤 幸男



## 井戸の掘削、見守る生徒たち



## ▼双葉町に「井戸」が！

町内の(株)サクセンが、公民館に井戸を寄贈されました。震災対応に井戸を推奨されている有力企業です。

6月6日、井戸に関心をもった開成高校(東京)の生徒40人の眼前で、地下30mから勢いよく噴水しました。

公民館は濡れ縁のある「町のえんがわ」を謳っています。改築後は手押しポンプを設置予定です。

震災時には「命の水」を、普段は「憩いの水」を提供し、子どもたちにも喜ばれることでしょう。



## 令和6年度長野県公民館関係者研修会

6月22日(土) 当地区、松南地区公民館において表記の大会が開催されました。

全県各地より130余名の公民館報に携わる関係者が久々に集いました。開会式に続き講演会が行われ、株式会社市民タイムス特別編集委員の花岡明生氏を講師にむかえ取材方法のコツ、技術、心構えは元より大事な記事編集、写真の使い方等大変ありがたい教えをいただきました。

松本全市版の先月号の桜の表紙も誉めていただきました。特に終わりに地域紙、公民館報は10年、20年と続ける



## 分科会



と地域の歴史の記録になると力強い言葉で締めくくっていただき、とすると「記事のマンネリ」読んでもらえているか?」の悩みと戦っている私達当事者には力強いエールと響いて終わりました。

午後には各分会に分かれそれぞれ分野で討議しましたが、私の参加させていただいた第3分会では白熱して時間が足りず、全体発表報告もできない始末で終了しました。大変ありがたく有意義な一日となり改めてコロナ明けの喜びとなりました。

(百瀬 壽)

大勢の来場者で賑わいました。



令和2年6月からコロナ禍での販売機会の減少対策や就労施設の魅力を発信する事等を目的として「木陰マルシェ」を合計25回開催致しました。

コロナ禍が明け、今年度より「つむぎマルシェ」として一新。販売だけでなく施設利用者も地域の方々と一緒に楽しめる「参加型」イベントとして、また、ふれあい交流を深める場として年4回開催する予定です。

## 「つむぎマルシェ」への思い

松本市希望の家 所長 齋藤 敬子



会場づくりはテントや机の準備等を施設利用者が地域のボランティアさんのお力添えのもと協働で行っています。

ひとつのものを協力して作り上げる経験を重ねること、社会の一員として地域で生きる力を蓄えることができます。

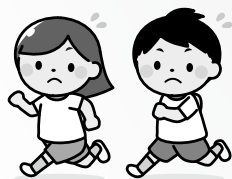
「つむぎマルシェ」では、施設利用者が丹精込めた商品（野菜、パン、焼き菓子、染物、手芸品等）を販売しています。自分の手掛けた作品が目前で売れる体験は何物にも代えがたい宝物です。是非、施設利用者の頑張る姿を応援に出掛けください。お待ちしております。

## 松南地区のできごと

6/1 開明小学校運動会



▶ ガンバレ、ガンバレ



5/30 お出かけウォーキング



▶ 咲き誇るバラの中で  
(信州スカイパークバラ園)

5/30 信明中学校地域一斉清掃



▶ 地域を美しく



## コラム松南

●「ひまわり」●

皆さん、この題名の映画をご存知ですか。ソフィアローレンが演じた名画です。私が最初この映画と出会ったのは10代後半だと思えます。その頃は洋画ブーム、それもヨーロッパなのに全然理解していなかった。改めて近頃その映画をテレビで観る機会があり、ただの恋愛映画でない事を知る。ウクライナの歴史の悲劇がバックボーンにあり、そんな中の男女の翻弄された悲しい物語。そして悲しい国の事実の大地に埋められた国土の上に咲く明るい美しい「ひまわり」は国民の命が咲いている事。

地位・権力を持つ者、国のリーダーは高い見識を持って国を導かないとんでもない悲劇を国民に押し付ける事になる。かつて我が国が踏んだ取り返しのつかない汚点が示すが如く。

ウクライナに一日も早くあの美しい「ひまわり」が再び咲き誇る日が訪れる事を願わずにいられなくて、あの映画を見終わって改めて涙をせずにはいられませんでした。

戦後80年を迎えるに当た

(百瀬 壽)